

報道関係者と民博との懇談会 話題一覧

平成 27 年 7 月 23 日(木) 15:30 ~ 16:30 第一会議室

1. 挨拶

— 須藤健一（館長）—

2. ニュースリリース

— 池谷和信（広報企画会議長）—

●みんなくの最新情報と今後3カ月の行事をご案内いたします。

3. 特別展

韓日食博—わかちあい・おもてなしのかたち

詳しくは
こちら

日韓国交正常化 50 周年を記念して、「韓国と日本の食文化と博物館」をテーマとした特別展を韓国国立民俗博物館と共同で開催します。韓国の「キムジャン(キムチ作りの文化)」と日本の「和食」がユネスコの無形文化遺産に登録され「食」に関する文化的な関心が高まっています。両国の 50 年間の「食」の変化と、「食」の背景にある文化の共通性と差異を探ります。モノだけでなく、最先端の情報技術、「食」のワークショップをとおして、観覧者が体感できる「食」の展示です。



食のオノマトペ（擬態語・擬声語）

会 期：2015 年 8 月 27 日（木）～ 11 月 10 日（火）

場 所：国立民族学博物館 特別展示館

主 催：国立民族学博物館、韓国国立民俗博物館

共 催：大阪工業大学、京都造形芸術大学、韓国芸術総合学校

観覧料：一般 830 円 高校・大学生 450 円 小・中学生 250 円

— 朝倉敏夫（民族社会研究部・教授）—

4. 台湾光点計画講座

日本の客家

「東洋のユダヤ人」の異名をとる華僑集団・客家は、日本にも居住しています。日本の客家の多くは、第二次世界大戦前後に台湾から移住し、団体をつくって活動を展開してきました。本講演会では、日本の客家の歩み、現在のアイデンティティや活動などについて、日本の客家自ら語っていただきます。

日 時：9 月 6 日（日）

13：30～16：45

場 所：国立民族学博物館 第 5 セミナー室

定 員：90 名（先着順）

参加費：無料／申込不要

対 象：一般公開

主催：国立民族学博物館

共催：台湾文化部「台湾光点計画」

協賛：全日本崇正總會、日本関東崇正会、日本関西崇正会

— 河合洋尚（研究戦略センター・助教）—

5. 台湾光点計画 みんなく映画会 一八九五

日本が台湾を植民地とした1895年に、台湾住民が抵抗した当時の状況を描き出した映画です。近年、台湾では、多文化主義運動の影響を受け、客家や原住民を意識した映画が増加しており、本映画は、初めて客家語を主体として製作されたものとして名高い作品です。研究者の解説とともに楽しみください。

日時：9月23日（水・祝）

13：30～（開場12：50）

場所：国立民族学博物館 講堂

定員：450名（先着順）

参加費：要展示観覧券（一般420円）

主催：国立民族学博物館

後援：台湾文化部「台湾光点計画」

— 河合洋尚（研究戦略センター・助教）—

6. みんなく秋の遠足・校外学習 事前見学&ガイダンス

詳しくは
こちら

学校団体の教員向けに遠足や校外学習など、博物館見学の準備や事前・事後の学習に役立つツールをご紹介します。さまざまなご相談もお受けいたします。

日時：8月21日（金）／8月24日（月）

14：00～16：30（受付は13：30～16：00）

場所：国立民族学博物館 第5セミナー室

— 亀井耕治（企画課・課長）—

7. 最新の研究紹介

詳しくは
こちら

「現代アジアの宗教 社会主義を経た地域を読む」

（藤本透子 編）春風社

— 藤本透子（民族文化研究部・助教）—

「極北の大地・グリーンランドの夜明け」

（ヌカ・K・ゴッツフレッセン著、沢広あや訳、岸上伸啓監修）清水弘文堂書房

— 岸上伸啓（研究戦略センター・教授 副館長）—

8. 研究こぼれ話

比較の試み — ルーマニアと日本のファシズム運動

ルーマニアと日本には意外な共通点があります。1920年代、右翼的な過激運動としての軍団運動（ルーマニア）と血盟団（日本）の出現です。ともに神秘的指導者、宗教的連帯感、偽装的改革主義、テロへの感溺を含む暴力的傾向を持ちます。もちろん差異も大きいですが、比較という作業を通して二つの社会と歴史に対する理解はより深くなります。

— 新免光比呂（民族文化研究部・准教授）—



国立民族学博物館

懇談会についてのお問い合わせ

国立民族学博物館 総務課 広報係

電話：06-6878-8560（直通）FAX：06-6875-0401 Mail:koho@idc.minpaku.ac.jp